

考えるヒント

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

「日本の株価の暴落は円高ドル安が引き金になるでしょう。1994 年の 6 月から急速に進行している円高によって名だたる日本の大企業の業績は、急速に悪化しています。とどまるところを知らない企業の業績悪化が、投資家心理に悪影響を及ぼし、それにニューヨーク株式市場の暴落への不安が重なって、東京株式市場の株価も、ニューヨーク株式市場の後を追うように 1994 年中に下落局面を迎えることになるでしょう。

私の予測では、早ければ 1994 年 11 月には日経平均は 1 万 8000 円を割ることになるでしょう。そして 1995 年にはニューヨークと同様に、本格的な暴落局面を迎えます。1995 年末には、日経平均が 1 万 2000 円、あるいは 1 万円になっていたとしても、私はさほど驚きません。

日本経済にとって、株価の防衛ラインは二つあると言われています。第一の防衛ラインは日経平均 1 万 5000 円です。株価がこの水準を割ると、一般企業の株式含み益が雲散霧消してしまうとされています。第二の防衛ラインは 1 万 2000 円で、この水準になると、一般企業が大幅な含み損を抱えるだけでなく、銀行や保険会社などの金融機関ですら含み資産が吹っ飛んでしまうというのです。

日本の金融機関はバブル崩壊後、膨大な不良債権の償却に頭を悩ませてきました。それでも、曲がりなりにも不良債権を少しずつ償却できたのは、所有株式の含み益があったからこそで、所有株式を少しずつ売却し、それによって得た利益で不動産不良債権の償却を進めてきたのです。

日経平均が 1 万 2000 円などという水準に落ち込んでしまうと、金融機関が所有株式を売却しても利益は出なくなります。不良債権の償却どころではなくなるのです。さらに株価が下がれば、株価の含み損を抱えて、金融機関は経営の基礎を根本的に揺るがされることになります。日本経済の最悪のシナリオ、金融恐慌の可能性がここで浮上してきます。

一つの銀行の支払い不能がきっかけとなって、金融システムが停止する。そんなタイプの金融恐慌が、大恐慌の中で起こるでしょう。金融業界への強い指導力で名高い大蔵省も日本銀行も、この種の金融恐慌に対応することは不可能です。間近に迫っている金融恐慌は、恐らく予期せざるきっかけで起こるでしょう。そして、起こった瞬間、手遅れになるのです。

1995 年に始まる大恐慌で、私の予測する日本経済最悪の事態は、日経平均の 1 万円台割れです。1930 年代の大恐慌では、ニューヨーク株式市場の株価はピーク時の 20%まで下がりました。この経験則からみると、過去の日経平均の最高は 4 万円弱でしたから、その 20%は 8000 円ということになります。東京株式市場の暴落が示す最悪の数字は、日経平均 8000 円とみることができるでしょう。

ニューヨーク株式市場の暴落と、それに引き続く東京株式市場の暴落。この株価暴落によって 1995 年に始まる「大恐慌の時代」の幕が開きます。株価も経済も打撃は深刻で、長く地をはうことになり、大恐慌の時代は最低で 5 年、最長で 7 年は続くことになるでしょう。」

* 以上、「世界大恐慌」ラビ・バトラ著 1994 年 10 月 19 日総合法令刊より引用。

2. ではどうしたらよいか

『下男が種いもを埋めてその上に「たねいも」と書いた木札を立てたので、ワシは門弟たちにこう言
ってやった。

「お前たちは、大道というものが、文字の中にあると思って、文字の研究ばかりして学問だと思い
込んでいるが、それは間違っているぞ。文字というのは道を伝える道具にすぎないんで、道そのもの
ではないんだ。それなのに本を読んでそれが道だと思っているのは、誤りなんだ。道というのは本の中
にあるのじゃなくて行いにあるんだよ。今あそこに下男が立てた木札の文字を見てごらん。この札
によって種いもを掘り出し、それを畑に植え作ってこそ、はじめて食物となるんだ。道も同じことで、
目印としての書物で道を求め、これを実行してこそ、はじめて道を体得することができるのさ。そう
でないとは学問といえない。ただの本読みというだけのことさ。」(第71夜)

「朝から晩まで一日中善いことを考えていても、善いことを実行しなければ善人とはいえんなあ。
これは、昼も夜も悪いことばかり考えているからといって、実際に悪事をはたらかなけりやあ悪人と
決めつけられないのと同じことだな。

だから悟りを開いたり、こころを静める修行などに暇つぶしするより、善いことをしようと考えたら
すぐ実行するんだな。親がある者は親に孝行になることをすぐやることだ。年少者がいれば、これ
を教育することをすぐやるんだ。飢えた人を見てかわいそうだと思ったら、すぐ食べ物を与えること
だ。悪いことをして悪かったと思ったら、すぐ改めなけりや何にもならない。飢えた者を見たときに、
哀れに思っても、食べ物をすぐ与えなけりや、ただ思っただけで善行にはならんのだよ。だから、ワ
シのやり方では実地実行を大事にするんだよ。」(第72夜)

「人として人間社会に住みながら、屋根が雨漏りするのを何もせず見ていたり、道路が破損してい
るのを関係ないもののように黙って見て通ったり、橋が朽ちているのを心配もせずに放っておくとい
った、人としての勤めを怠るものは、人道上の罪人なんだぞ。」(第73夜)

「桜町の陣屋(役所)の豊職人の源吉というものがワシの家に入りしにいたが、なかなか口が達者
で才知もあった。しかし大酒飲みの上に怠け者なので貧乏だった。

この源吉が年末になってワシのところに正月用のもち米を貸してほしいと言ってきたことがある。
ワシはこのとき言ってやったんだ。

「源吉や、お前のように年中家業を怠けて働かないで、銭ができれば酒を飲んで使ってしまう者
が、正月だからといって、一年中身を粉にして働いている者と同じようにもちを食おうというのはた
いへんな了見違いというもんだぞ。いったい正月というものは、突然やってくるもんじゃない。また
米も偶然得られるもんじゃあない。正月は365日明け暮らしてからやってくる。その間、春に耕し、
夏には草を取り、秋に刈ってはじめて米になるんだぞ。それなのにお前は春耕さず、夏草取りもせず、
秋に刈りもせず、米がないのはあたり前なんだ。正月だからといってもちを食えるわけがないのさ。
いま貸したところで何をあてに返すつもりだ。借りて返さなければ罪人になるんだぞ。

もし正月にもちが食いたいなら、今日から遊び怠けるのを改め、酒をやめ、山林にいつて落ち葉を
かき集め堆肥をつくり、来年春から田をつくり米をとり、再来年の正月にその米でもちをつくって食
べるんだ。だからお前は、来年の正月は、自分の今までの過ちを悔い、もちを食うことをやめなさい。」
と懇々と論じてやったんだよ。

源吉は、はっと目が覚め、これまでの過ちを後悔して、

「ワシは遊び放題で家業を怠け、酒をくらい、そのくせ年中、一所懸命働いている者と同じようにもちを食べて正月を迎えようと思っていたがまったくの考え違いだった。きょうから怠けるのをやめ酒も飲まず、今までの過ちを悔いて新年を迎え、来年の正月はもちを食べないで正月の２日から仕事を始め、一所懸命働いて再来年は人並みにもちをついて正月を祝うようにしますだ」と言って、浅く礼を述べ、いとま乞いをしてしおしおと門を出た。

ワシは源吉が門を出ていくのを見て、急いで呼び戻し、ワシの教えをよく納得できたかと聞き、源吉が「ほんとうに感じ入りやした。生涯忘れんで、酒は一切やめ懸命に働くだ」と言った。そこで、源吉に白米一俵と金一両に大根や芋などを添えて渡してやったのさ。

それから源吉は生まれ変わったような勤勉な一生を送ったんだ。」(第 78 夜)

* 以上、「二宮尊徳口述・二宮翁夜話」1995 年 1 月 24 日、日本経営合理化協会出版局刊より引用。

3 . おわりに

「もうあまり時間をかけている余裕はない。取り組みが遅れれば遅れるほど、より大きな禍根、負の遺産を、将来の経済、今の子供達に残すことになる。一時的・部分的には痛みを伴うが、それに取り組まなければ将来の発展の道は開けない。」

* 産業構造審議会総合部会基本問題小委員会報告書の要旨

(1994 年 6 月・通省産業省)の「おわりに」より引用。

今回は昨年より読み続けている 3 冊の本より引用させて頂き、この経済危機(クラッシュ)に対処するための基礎知識とさせて頂きました。是非何十回でも御熟読頂き、どうしたらよいか自らのこととしてお考え下さい。